

## 広島大学東広島キャンパス出土瓦器観察表

### 例 言

- ここに収録する資料は、1981～1982年に広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会が発掘調査を行った鏡西谷遺跡、1995～2000年に広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会（1999年4月からは環境保全委員会）が発掘調査を行った山中池南遺跡第2地点において出土した瓦器である。
- 収録した瓦器は破片が大半であるが、可能な限り詳細に特徴を記載した。
- 資料の各遺跡における出土地区および調査区は、広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室刊行の『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－農場地区の調査－』（2002年）および『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－山中地区の調査－』（2005年）に依拠している。
- 鏡西谷遺跡では発掘対象地全域に一辺5mのグリッドを設定しており、出土位置を記録した遺物以外は、各グリッドごと、あるいは近接した複数のグリッドをまとめる形で取り上げられている。したがって、遺物出土区の表記法ならびにその示す内容については以下のごとくである。
  - A5：A5区出土
  - A5・6：A5区、A6区出土
  - A・B5区：A5区、B5区出土
  - A・B－5・6区：A5区、A6区、B5区、B6区出土
  - A～C3区：A3区、B3区、C3区出土
  - A～C－3～5区：A3区、A4区、A5区、B3区、B4区、B5区、C3区、C4区、C5区出土
- 資料番号は、接合破片は接合資料全体に対して、非接合の破片は各破片に対して付しており、接合資料については破片数を明示した。また、接合はしていないが、色調、胎土などが非常に類似し、近接して出土（同一グリッドなど）した資料についても同一資料番号とした。なお、本文中での破片数は、接合した個体については接合資料全体で1点とカウントしている。

付表 1 - 1 鏡西谷遺跡 (B 地区・C 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
1	B	J6区		埴	口縁部～体部	1	14.8			黄灰褐色	黄灰褐色
2	B	C2区		埴	口縁部～体部	6	15.0			灰褐色	暗灰褐色
3	B	C・D2区		埴	口縁部～体部	1				灰褐色	黄灰褐色
4	B	G5区		埴	口縁部～体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
5	B	C5区		皿	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
6	B	C4区		埴	口縁部	1				灰褐色	暗灰褐色
7	B	西半		埴	体部	1				灰褐色	灰白色
8	C	H2区	S B 01	埴	口縁部～底部	5	14.8	4.2	4.1	黒褐色	黒褐色
9	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～底部	6	15.2	4.4	4.0	灰褐色	灰褐色
10	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～底部	4	14.8	4.4	3.7	暗灰色	灰白色
11	C	G・H2区	S B 01	埴	口縁部～底部	3	15.2	4.4	4.1	黒褐色	黒褐色
12	C	G・H2区	S B 01	埴	口縁部～底部	6	15.4	4.8	4.2	灰白色	灰白色
13	C	F2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1	15.0	4.6	4.1	灰褐色	灰褐色
14	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	2	14.4			灰白色	黒褐色
15	C	G・H2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1	15.6			灰褐色	黒褐色
16	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1	14.9			黒褐色	黒褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は丸くふくらみ、内湾した体部をもつ。内面には幅3～4mmのミガキが見られる。		第4図1	図版1-1
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	外反する口縁部をもち、端部は丸く膨らむ。器壁は薄い。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第4図2	図版1-2
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は外反し、体部との境はヨコナデによって明瞭な段となっている。内面には幅1～2mmの簡略なミガキが施されている。		第4図3	図版1-3
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はわずかに外反する。内面には幅2mmほどのミガキが見られるが、全体は不明瞭。		第4図4	図版1-4
ナデ	ナデ	摩滅が著しく、調整や暗文は不明。		第4図5	図版1-5
ナデ	ナデ	摩滅が著しく、調整やミガキは不明。			図版5-6
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	端部は欠損しているが、口縁部から体部にかけての破片である。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-7
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は直線的であるが、体部は内湾し底部へとつづく。内面には口縁部から体部にかけて幅2～4mmほどの粗く不規則な圏線状のミガキが見られる。見込みにはジグザグ状になると思われる暗文が施されているが、一方の先は接していないようにみえる。高台は断面方形状を呈している。	ほぼ完形	第6図6	図版2-6
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部から体部までは比較的直線的であるが、体部下半で湾曲し底部へとつづく。高台は断面方形状を呈し、底面にはナデ残した部分が高まりになっている。内面には見込みにジグザグ状の暗文が見られ、口縁部から体部にかけて幅2～4mmの圏線状のミガキが施されている。	口縁部2/3、 底部すべて 残	第6図7	図版2-7
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はヨコナデによりわずかに外反ぎみになり、体部は内湾しながら底部へとつづく。内面には口縁部から体部にかけて幅2～3mmの圏線状のミガキが見られる。体部下半から見込みにかけては螺旋状になると思われる暗文が施されているようであるが、摩滅が著しく明確ではない。	口縁部1/4、 底部1/2残	第6図8	図版2-8
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部と体部の境ではやや内湾し、そこから直線的に底部へとつづく。高台は断面三角形状となるようである。内面には幅2mmほどの圏線状のミガキが見られるが、全体的に不明瞭である。	口縁部1/2、 底部わずかに 残	第6図9	図版2-9
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はナデによって窪み、端部は丸く膨らむ。外面の凹凸はあまり目立たない。高台は低く、断面方形状を呈する。内面には見込みに平行線状の暗文が施され、口縁部から体部にかけては幅1～2mmの圏線状のミガキが見られる。		第7図10	図版1-10
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はヨコナデにより外反ぎみになり、体部はやや内湾しながら底部へとつづく。内面には幅1～2mmの圏線状のミガキが見られる。見込み部には輪状の暗文があるようであるが、不明瞭。		第7図11	図版1-11
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はやや外反し、体部との境には明瞭な段をもつ。外面体部にはミガキが見られるが、粗雑である。内面には見込みに平行線状の暗文が施され、体部には幅1～3mmのミガキが密に施されている。		第7図12	図版1-12
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	内湾する体部をもち、口縁部は比較的直線的である。端部はわずかに外反し、丸くおさめている。内外面ともに摩滅が著しい。内面には幅1～2mmの圏線状のミガキが見られる。		第7図13	図版1-13
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は外反し、体部はゆるやかに内湾しながら底部へとつづく。内面には幅1mmほどの圏線状のミガキが見られる。見込みの暗文は輪状になっていると思われる。		第7図14	図版1-14

付表 1 - 2 鏡西谷遺跡 (C 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
17	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	15.0			暗灰褐色	暗灰褐色
18	C	H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	15.0			黒褐色	黒褐色
19	C	G・H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	15.0			灰褐色	灰白色
20	C	H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	14.3			暗灰褐色	暗灰褐色
21	C	G・H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	3	15.0			黒褐色	暗灰褐色
22	C	G・H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	14.8			灰褐色	灰褐色
23	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	15.0			灰白色	灰白色
24	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	14.8			灰褐色	灰褐色
25	C	G・H2区 G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	2	15.0			暗灰色	暗灰色
26	C	H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1	15.0			黒褐色	黒褐色
27	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～底部	2	15.6	4.1	4.1	黄灰褐色	黄灰褐色
28	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	2				暗灰色	暗灰色
29	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
30	C	G・H2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1				灰白色	灰白色
31	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
32	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1				黒褐色	黒褐色
33	C	G2区	S B 01	碗	口縁部～体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は外反し、体部はゆるやかに内湾しながら 底部へとつづく。外面には指頭調整による凹凸が 顕著に残る。内面には幅1～2mmのミガキが見 られるが、不明瞭である。		第7図15	図版1-15
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部のナデ幅は狭く、端部はナデによって外へ 広がる。体部は比較的直線的に底部へとつづく。 内面には幅2～3mmほどの不規則な暗文が見ら れるが、ミガキがつながっていないように見える。		第7図16	図版1-16
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁端部は丸くふくらみをもち、体部との境には 明瞭な段をもつ。内面には幅1mmほどのミガキが 見られる。		第7図17	図版1-17
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はわずかに外反し、端部は丸くおさめる。 内外面ともに摩滅が著しい。内面には非常に不明 瞭ではあるが、ミガキが見られる。		第8図18	図版1-18
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はふくらみをもち、直線的な体部をもつ。 外面は指頭調整による凹凸が顕著にのこる。内面 には幅1～2mmほどの圏線状のミガキが見られ るが、不明瞭である。		第8図19	図版1-19
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は丸くおさめ、体部外面は器壁が剥落して いる。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第8図20	図版1-20
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁端部は丸くふくらみ、体部との境には明瞭な 段をもつ。内面には幅2mmほどのミガキが見られ る。		第8図21	図版1-21
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部から体部にかけては直線的であり、内面 には幅1～2mmのミガキが見られる。		第8図22	図版1-22
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はナデによって外反し、口縁下は凹線状に なっている。体部は内湾しながら底部へとつづく。 内面には幅1～2mmの圏線状のミガキが見られ るが不明瞭である。内面にもミガキではなく凹線 状になっている部分がある。		第8図23	図版1-23
		口縁部はわずかに外反し、端部は丸くふくらみ をもつ。内外面ともに摩滅が著しく、調整・暗文と もに不明である。		第8図24	図版1-24
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はヨコナデによってくぼみ、やや内湾しな がら底部へとつづく。全体的に摩滅しており、暗 文は見られない。高台は断面三角形形状を呈してい る。	底部 1/3 残	第8図25	図版1-25
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は直線的で外方にのび、内湾する体部をも つ。内面にはミガキが見られるが、摩滅が著しい。		第8図26	図版1-26
ナデ	口縁部はヨコナデ・ 指頭調整、体部は ナデと指頭調整	口縁部から体部へは直線的につづく。口縁部にも 指頭調整が見られる。内面にはミガキが見られる が、不明瞭である。		第9図27	図版1-27
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はわずかに外反し、端部は丸くふくらむ。 ゆるやかに内湾する体部をもち、内面には口縁部 から体部にかけて幅3mmほどの圏線状のミガキ が、見込み付近には平行線状の暗文が施されてい る。		第9図28	図版1-28
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁端部はわずかにふくらみ、丸くおさめている。 内外面ともに摩滅が著しいが、内面にはミガキが 見られる。		第9図29	図版1-29
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	直線的な口縁部である。全体的に摩滅しており、 ミガキは不明瞭である。		第9図30	図版1-30
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はナデによって外反し、外面には指頭調整 による凹凸が顕著に残る。内面は摩滅しており、 口縁部付近にミガキと思われるものがわずかに見 られるのみである。		第9図31	図版1-31

付表1-3 鏡西谷遺跡（C地区）出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
34	C	H2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				灰白色	灰白色
35	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				灰褐色	灰褐色
36	C	H4区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				黒褐色	黒褐色
37	C	B3区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				暗灰色	暗灰褐色
38	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				灰白色	灰褐色
39	C	F2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				暗灰色	暗灰色
40	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰褐色	灰褐色
41	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				灰褐色	灰褐色
42	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰白色	灰白色
43	C	G2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				灰褐色	黒褐色
44	C	G・H2区	S B 01	埴	口縁部～体部	1				暗灰色	暗灰色
45	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
46	C	H3区	S B 01	埴	口縁部	1				灰褐色	灰褐色
47	C	H2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰褐色	暗灰褐色
48	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
49	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				黒褐色	暗灰褐色
50	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰褐色	灰褐色
51	C	H・I2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰白色	灰白色
52	C	G2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰白色	灰白色
53	C	G2区	S B 01	埴	体部～底部	1		4.4		暗灰褐色	暗灰褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	口縁部はヨコナデと指頭調整体部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、内面には幅1～2mmのミガキが見られる。口縁部にも指頭調整が見られる。		第9図32	図版1-32
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部から直線的に体部へとつづく。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図33	図版1-33
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁端部は丸くおさめ、内面には幅1mmほどのミガキが見られる。		第9図34	図版1-34
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部はわずかに内湾する。内面には幅1mmほどのミガキが見られる。		第9図35	図版1-35
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、外面は一部器壁が剥落している。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図36	図版1-36
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部は内湾し、端部内側に面をもつ。内面には幅1mmほどのミガキが比較的密に施されている。		第9図37	図版1-37
ナデ	ヨコナデ	口縁部は丸くふくらみをもち、外反気味である。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図38	図版1-38
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部は丸くおさめ、わずかに先細り気味である。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。		第9図39	図版1-39
ナデ	ヨコナデ	内面には不明瞭であるが幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図40	図版1-40
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	直線的な口縁部をもち、体部にかけては内湾ぎみである。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図41	図版1-41
ナデ	口縁部はヨコナデ、体部はナデと指頭調整	口縁部は直線的で、端部は丸くふくらみをもつ。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図42	図版1-42
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	口縁部はわずかに外反し、端部近くにも指頭調整が見られる。内面には幅1～2mmのミガキが見られる。		第9図43	図版1-43
ナデ	ナデ	口縁部は丸くおさめ、内面には幅2～3mmのミガキが見られる。		第9図44	図版1-44
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	口縁部は強いナデによって外反し、端部は丸くおさめている。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。		第9図45	図版1-45
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	口縁部はわずかにふくらみ、端部内側は面をもつ。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。		第9図46	図版1-46
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	口縁部はわずかにふくらみ、内面にはミガキが見られる。		第9図47	図版1-47
ナデ	ナデ	口縁部はわずかにふくらみ、内面にはミガキが見られる。		第9図48	図版1-48
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	口縁部はわずかにふくらみ、端部内側には面をもつ。内面にはミガキが見られる。		第9図49	図版1-49
ナデ	ヨコナデ	外反する口縁部をもつ。全体的に摩滅しており、ミガキは不明瞭である。		第9図50	図版1-50
ナデ	ヨコナデ・指頭調整	高台は先端を押さえた低い方形状である。外面高台付近には高台を貼りつけた際のナデ痕が残っている。内面には暗文が見られるが、全体の文様は不明である。器表には付着物が見られる。		第10図51	図版4-51

付表 1 - 4 鏡西谷遺跡 (C 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
54	C	G・H2区	S B 01	埴	底部	1		3.0		暗灰褐色	暗灰褐色
55	C	G2区	S B 01	埴	底部	1		5.6		暗灰褐色	暗灰褐色
56	C	G2区	S B 01	埴	体部～底部	1		4.6		黒褐色	黒褐色
57	C	G2区	S B 01	埴	底部	1		4.5		黒褐色	黒褐色
58	C	H3・4区	S B 01	埴	底部	1				灰白色	灰白色
59	C	F2区	S B 01	埴	底部	1		4.0		黄灰褐色	黄灰褐色
60	C	G2区	S B 01	埴	底部	1		3.2		灰褐色	灰褐色
61	C	F2区	S B 01	埴	底部	1		4.6		灰褐色	灰褐色
62	C	G・H2区	S B 01	埴	体部～底部	1		4.2		黄灰褐色	黒褐色
63	C	G・H2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	9.0	6.6	1.3	黄灰色	黄灰色
64	C	H2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.4	5.4	2.5	暗灰褐色	暗灰褐色
65	C	G・H2区	S B 01	皿	口縁部～底部	3	8.6	7.2	1.5	黄灰色	灰褐色
66	C	G2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	7.8	3.4	1.2	灰白色	灰白色
67	C	G2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	9.0	5.8		灰白色	灰白色
68	C	G・H2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.5	6.4	1.5	暗灰褐色	暗灰褐色
69	C	H3区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.0	5.0	1.5	暗灰褐色	暗灰褐色
70	C	G2区	S B 01	皿	口縁部～底部	2	8.2	6.2		暗灰色	暗灰色
71	C	H3区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.0	6.4		灰褐色	黒褐色
72	C	H2区	S B 01	皿	口縁部	1	8.0			暗灰褐色	暗灰褐色



調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は低い断面三角形形状を呈している。内面には幅1～2mmの暗文が見られるが全体像は不明である。		第10図52	図版4-52
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は先端を押さえ、低い方形形状である。外面高台付近にはヘラケズリのような調整が見られる。内面には暗文が見られるが不明瞭である。		第10図53	図版4-53
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は低く、断面方形形状である。外面には指頭調整による凹凸が顕著に見られる。内面見込みには平行線状になると思われる暗文が見られる。		第10図54	図版4-54
ナデ	ナデ	高台は低く、断面は半円状である。内面には平行線状になると思われる暗文が見られる。		第10図55	図版4-55
ナデ	ナデ	高台は比較的高く、断面方形形状を呈している。内面には不規則な暗文が見られる。		第10図56	図版4-56
ナデ	ナデ	高台は先端をナデており、断面は方形に近い。内面には暗文が見られるが、摩滅および表面が一部剥落しており不明瞭である。		第10図57	図版4-57
ナデ	ナデ	高台は断面三角形形状である。内面には連結輪状の暗文が見られる。		第10図58	図版4-58
ナデ	ナデ	高台は粗雑な作りで、調整も粗い。断面はつぶれた低い方形形状である。摩滅しており暗文等は不明である。		第10図59	図版4-59
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は断面三角形形状を呈している。内面は摩滅が著しく、暗文は見られない。		第10図60	図版4-60
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、底部は比較的平坦である。内面には幅1～2mmの圈線状のミガキが見られ、見込みにも線状の暗文が施されている。暗文の一方の先端は鉤状になっている。	1/2 残	第10図61	図版3-61
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外方に開き、底部は丸みをもつ。内面には螺旋状になると思われる暗文が見られるが、不明瞭である。	1/2 残	第10図62	図版3-62
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外方に開き、底部は丸みをもつ。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。	完形	第10図63	図版3-63
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部はわずかに外反し、底部は丸みをもつ。二次焼成を受けており、内面は不明瞭であるが見込みには輪状になると思われる暗文が見られる。		第10図64	図版4-64
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外方に開き、底部は比較的平坦である。内面見込みには暗文が見られる。口縁部外面にはスズ状のものが付着している。		第10図65	図版4-65
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、先端はわずかに丸くふくらむ。完形の皿であるが、暗文は摩滅のためか確認できない。	完形	第10図66	図版3-66
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、底部は丸みをもつ。内面は摩滅しており、ミガキ・暗文は不明である。		第10図67	図版4-67
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部はわずかに外反し、底部はわずかに丸みをもつ。摩滅しており暗文等は不明である。		第10図68	図版3-68
ナデ	口縁部はヨコナデ、底部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、底部は丸みをもつようである。摩滅により暗文等は不明である。		第10図69	図版4-69
ナデ	ナデ・指頭調整	外反する口縁部である。摩滅しており暗文等は不明である。		第10図70	図版4-70

付表 1 - 5 鏡西谷遺跡 (C 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
73	C	I3区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.0			黒褐色	黒褐色
74	C	G2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.0			暗灰褐色	暗灰褐色
75	C	G2区	S B 01	皿	口縁部～底部	1	8.4	6.4		黒褐色	黒褐色
76	C	H3区	S B 01	皿	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
77	C	G2区	S B 01	坏	体部～底部	1				黒褐色	暗灰褐色
78	C	I4区		埴	口縁部～体部	1				暗灰褐	暗灰褐色
79	C	H5区		埴	口縁部～体部	1				灰褐色	暗灰褐色
80	C	不明		埴	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
81	C	不明		埴	口縁部	1				灰白色	灰白色
82	C	H・I5区		埴	底部	1		3.4		灰褐色	灰褐色
83	C	B2区		埴	底部	1				灰褐色	灰褐色
84	C	B2区		埴	体部	1				灰白色	灰白色
85	C	B2区		埴	体部	1				灰褐色	灰褐色
86	C	B2区		埴	体部	1				灰褐色	黄灰褐色
87	C	D1・2区		埴	体部	1				黒褐色	黒褐色
88	C	D1・2区		埴	体部	2				暗灰褐色	暗灰褐色
89	C	D1・2区		埴	体部	1				灰白色	灰白色
90	C	F2区	S B 01	埴	口縁部	1				灰褐色	黄灰褐色
91	C	F2区	S B 01	埴	体部	1				灰褐色	黄灰褐色
92	C	F・G5区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
93	C	G2区	S K01	埴	体部	1				黒褐色	黒褐色
94	C	G2区	S K01	埴	体部	1				黒褐色	黒褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデと指頭 調整	口縁部は外反する。内面は摩滅しており、暗文等 は不明である。		第 10 図 71	図版 4 - 71
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデと指頭 調整	口縁部は外方に開き、内湾しながら底部へとつづ く。内面には幅 1mm ほどのミガキが見られる。		第 10 図 72	図版 4 - 72
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデと指頭 調整	口縁部は外方に開き、底部では平坦となるよう である。ミガキが見られるが摩滅により不明瞭 である。		第 10 図 73	図版 4 - 73
ナデ	ナデ・指頭調整	外反する口縁部であるが摩滅が著しく、暗文等 は不明である。		第 10 図 74	図版 4 - 74
ナデ	ナデ・指頭調整	底面は比較的平坦に仕上げられている。摩滅のた めか暗文等は見られない。		第 10 図 75	図版 4 - 75
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は外反し、先端は丸くおさめている。内面 には幅 1～2mm のミガキが比較的密に施されて いる。		第 11 図 76	図版 4 - 76
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部は外反し、口縁下は強いナデによって沈線 状となっている。内面には幅 1～2mm のミガキ が見られる。		第 11 図 77	図版 4 - 77
ナデ	ナデ・指頭調整	直線的な口縁部で、先端はわずかにふくらむ。内 面にはミガキが見られるが不明瞭である。		第 11 図 78	図版 4 - 78
ナデ	ナデ・指頭調整	直線的な口縁部で、端部付近にも指頭調整が見ら れる。内面にはミガキと思われるものが見られる が、不明瞭である。		第 11 図 79	図版 4 - 79
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は比較的高く、断面は三角形に近い。見込 みの暗文はやや不規則であるが、格子状になると 思われる。		第 11 図 80	図版 4 - 80
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は断面方形形状を呈している。摩滅しており暗 文は不明。			図版 5 - 83
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明。			図版 5 - 84
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明。			図版 5 - 85
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 86
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 87
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。見込 みには平行線状の暗文が見られる。			図版 5 - 88
ナデ	ナデ	内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 89
ナデ	ナデ	内面には幅 1mm 程のミガキが見られる。			図版 5 - 90
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 91
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には密にミガキが見られる。			図版 5 - 92
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明。			図版 5 - 93
ナデ	ナデ・指頭調整	見込み付近の破片であり、平行線状の暗文が見ら れる。			図版 5 - 94

付表 1-6 鏡西谷遺跡 (C 地区) 出土瓦器觀察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
95	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	灰褐色
96	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
97	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	暗灰褐色
98	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	暗灰褐色
99	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰白色
100	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
101	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
102	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
103	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
104	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
105	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
106	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
107	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
108	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
109	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
110	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
111	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	暗灰褐色
112	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
113	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
114	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
115	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
116	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
117	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ナデ・指頭調整	やや不明瞭であるが、内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-95
ナデ	ナデ・指頭調整	見込み付近の破片と思われ、平行線状の暗文が施されている。体部には幅3～4mmのミガキが見られる。			図版5-96
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅2～3mmのミガキが見られる。			図版5-97
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-98
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-99
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-100
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅2mmのミガキが見られる。			図版5-101
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-102
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-103
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-104
ナデ	ナデ・指頭調整	見込み付近の破片と思われ、螺旋状と思われる暗文が施されている。体部には幅3～4mmのミガキが見られる。			図版5-105
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-106
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅が著しく、ミガキは不明である。			図版5-107
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には比較的密にミガキが施されている。			図版5-108
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-109
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-110
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅2mmほどのミガキが見られ、見込みには平行線状の暗文が施されている。			図版5-111
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-112
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版5-113
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-114
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-115
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版5-116
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅1～2mmのミガキが見られる。			図版5-117

付表 1-7 鏡西谷遺跡 (C 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
118	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰褐色
119	C	G2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
120	C	G2区	S B 01	皿	体部~底部	1				黒褐色	黒褐色
121	C	G2区~E2区		碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
122	C	G5区		碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
123	C	G・H2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	明黄褐色
124	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				灰白色	灰白色
125	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
126	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
127	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	暗灰色
128	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
129	C	H2区	S B 01	碗	口縁部	1				明黄灰褐色	明黄灰褐色
130	C	H2区	S B 01	碗	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
131	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				黒褐色	暗灰褐色
132	C	H2区	S B 01	碗	体部	1				暗灰色	暗灰褐色
133	C	H2区	S B 01	碗	底部	1				灰白色	明黄灰褐色
134	C	H2区	S B 01	皿	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
135	C	H3区	S B 01	坏または皿	体部	1				黒褐色	黒褐色
136	C	H3区	S B 01	碗	体部	1				暗灰色	暗灰色
137	C	H3区	S B 01	碗	体部	1				暗灰色	暗灰色
138	C	H3区	S B 01	碗	体部	1				暗灰色	黒褐色
139	C	H3区	S B 01	皿	体部	1				灰褐色	黒褐色
140	C	H3区	S B 01	皿	体部~底部	1				黒褐色	黒褐色
141	C	H・I2区	S B 01	碗	体部	1				暗灰色	暗灰色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ナデ	内面には幅 1mm のミガキが見られる。			図版 5 - 118
ナデ	ナデ	内面には幅 1mm のミガキが見られる。			図版 5 - 119
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 120
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 121
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 122
	ナデ・指頭調整	内面は剥落しており、調整・暗文等は不明である。			図版 5 - 123
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 124
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅が著しく、ミガキは不明である。			図版 5 - 125
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られ、見込みには平行線状の暗文が施されている。			図版 5 - 126
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 127
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅が著しく、ミガキは不明である。			図版 5 - 128
ナデ	ヨコナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 5 - 129
ナデ	ナデ	摩滅が著しく、ミガキは不明である。			図版 5 - 130
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 131
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 132
ナデ	ナデ	高台は断面三角形を呈している。見込みには平行線状の暗文が見られる。			図版 5 - 133
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 5 - 134
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 5 - 135
ナデ	ナデ	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 136
ナデ	ナデ	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 137
ナデ	ナデ	摩滅が著しく、ミガキは不明である。			図版 5 - 138
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 5 - 139
ナデ	ナデ・指頭調整	底部は比較的平坦で、内面には暗文が見られるが不明瞭である。			図版 5 - 140
ナデ	ナデ	内面には幅 1 ～ 2mm のミガキが見られる。			図版 5 - 141

付表1-8 鏡西谷遺跡(C地区・D地区・E地区)出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
142	C	H・I-3・4区	S B 01	碗	体部	2				黒褐色	黒褐色
143	C	H・I-3・4区	S B 01	碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
144	C	H・I5区		碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
145	C	I3区	S B 01	碗	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
146	C	I4区		碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
147	C	排土		碗	体部	1				黒褐色	黒褐色
148	C	不明		碗	底部	1				黒褐色	黒褐色
149	D	B2・3区		碗	体部	1				灰褐色	灰褐色
150	E	C3・4区		碗	口縁部～体部	4	15.0			暗褐色	暗褐色
151	E	A・B1区		碗	口縁部～体部	1	15.1			暗灰褐色	暗灰褐色
152	E	D3区		碗	口縁部～体部	2	15.0			灰褐色	灰褐色
153	E	DE区		碗	口縁部～体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
154	E	C・D-1・2区		碗	口縁部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
155	E	B3区		碗	口縁部～体部	1				黒褐色	黒褐色
156	E	排土		碗	口縁部～体部	1				暗灰色	暗灰色
157	E	C3・4区		碗	口縁部～体部	1				灰褐色	暗褐色
158	E	D3区		碗	口縁部～体部	1				灰褐色	灰褐色
159	E	A～E-3区		碗	口縁部	1				灰褐色	灰褐色
160	E	D・E区	境界セクション ンベルト	碗	口縁部～体部	1				灰褐色	灰褐色
161	E	D4区		碗	口縁部	1				暗灰色	暗灰色
162	E	D4区		碗	口縁部	1				暗灰褐色	暗灰褐色



調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1～2mm のミガキが比較的密に見られる。			図版 5 - 142
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。見込みには平行線状の暗文が見られる。			図版 6 - 143
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には比較的密にミガキが施されている。			図版 6 - 144
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 145
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 146
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 147
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は低く、断面三角形状を呈している。器壁は薄く、高台周辺は比較的丁寧にナデられている。見込みには平行線状の暗文が見られる。			図版 6 - 148
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 149
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部は直線的で、体部は内湾しながら底部へとつづく。内面には幅 1mm ほどのミガキが見られるが、不明瞭である。	第 13 図 81		図版 4 - 81
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめる。内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。	第 13 図 82		図版 4 - 82
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部は外方に開き、体部は丸みをもつ。摩滅しておりミガキは見られない。	第 13 図 83		図版 4 - 83
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部はやや外反し、端部はわずかにふくらむ。体部との境は段状となっている。内面には幅 1～2mm の暗文が見られる。	第 13 図 84		図版 4 - 84
ナデ	ヨコナデ	口縁部のヨコナデは 2 段になっている。摩滅しておりミガキは見られない。	第 13 図 85		図版 4 - 85
ナデ	ナデ・指頭調整	口縁部は内湾し、わずかにふくらむ。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。	第 13 図 86		図版 4 - 86
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部は外反し、端部はわずかにふくらむ。体部との境は段状となっている。内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。	第 13 図 87		図版 4 - 87
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部はわずかに外反し、端部は丸くふくらむ。内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。	第 13 図 88		図版 4 - 88
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	口縁部はわずかに外反し、丸くふくらむ。内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。	第 13 図 89		図版 4 - 89
ナデ	ヨコナデ	口縁部は端部をまるくおさめ、内面には幅 1～2mm のミガキが見られる。	第 13 図 90		図版 4 - 90
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭調整	直線的な口縁部で、端部内面には面をもつ。内面にはミガキが見られるが不明瞭である。	第 13 図 91		図版 4 - 91
ナデ	ヨコナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。	第 13 図 92		図版 4 - 92
ナデ	ナデ	口縁部は丸くふくらむ。内外面ともに表面が剥落しており、調整・ミガキともに不明瞭である。	第 13 図 93		図版 4 - 93

付表 1 - 9 鏡西谷遺跡 (E 地区) 出土瓦器観察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
163	E	B・C-8区		埴	口縁部	1				灰白色	灰白色
164	E	C・D2区		埴	口縁部	1				黄褐色	暗褐色
165	E	A・B-1・2区		埴	体部～底部	1		4.1		灰褐色	黄灰褐色
166	E	E5区		埴	体部～底部	1		4.1		暗灰褐色	灰褐色
167	E	D・E-1～4区	境界セクション ンベルト	埴	底部	1		4.6		暗灰色	暗灰色
168	E	排土		埴	体部～底部	1		3.9		橙褐色	橙褐色
169	E	排土		埴	体部～底部	1		4.0		赤褐色	赤褐色
170	E	A～E-3区		皿	口縁部～底部	1	8.0	5.4		黄褐色	黄灰褐色
171	E	D4区		皿	口縁部～底部	1	7.9	4.8		黒褐色	黒褐色
172	E	B1・2区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
173	E	B3区		埴	体部	1				灰白色	灰白色
174	E	A・B-1・2区		埴	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
175	E	A・B-1・2区		埴	体部	1				暗黄灰褐色	暗黄灰褐色
176	E	A・B-1・2区		埴	体部	1				灰白色	灰白色
177	E	A・B2区		埴	口縁部～体部	3				暗褐色	暗褐色
178	E	A・B2区		埴	体部	1				橙褐色	橙褐色
179	E	C2区		埴	体部	1				灰褐色	灰褐色
180	E	C3・4区		埴	口縁部	1				灰褐色	灰褐色
181	E	C・D-1・2区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
182	E	C・D-3・4区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
183	E	C・D-3・4区		埴	底部	1				灰褐色	灰褐色
184	E	D3区		埴	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
185	E	D3区		埴	体部	1				黄灰褐色	灰褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ヨコナデ	外方に開く口縁部で、内面には幅 2mm ほどのミガキが見られる。		第 13 図 94	図版 4 - 94
ナデ	ナデ・指頭調整	口縁部は丸くおさめ、体部との境はわずかに段となる。摩滅しており、ミガキは不明である。		第 13 図 95	図版 4 - 95
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は低く、粘土紐が途中で途切れるなど、作りが粗雑である。内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られ、見込みには平行線状になるとされる暗文が見られる。		第 13 図 96	図版 4 - 96
ナデ	ナデ・指頭調整	高台は低く、断面方形状を呈している。見込みには暗文が見られるが全体は不明である。		第 13 図 97	図版 4 - 97
ナデ	ナデ	高台は断面方形状を呈し、周辺は丁寧にナデられている。内面には平行線状の暗文が見られる。		第 13 図 98	図版 4 - 98
ナデ	ナデ・指頭調整	著しく摩滅しており、暗文等は不明瞭である。高台は断面方形状を呈している。		第 13 図 99	図版 4 - 99
ナデ	ナデ・指頭調整	著しく摩滅しており、暗文等は不明瞭である。高台は断面三角形状を呈している。		第 13 図 100	図版 4 - 100
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデと指頭調整	口縁部は外方に開き、底部は比較的平坦である。摩滅しており、暗文は不明である。		第 13 図 101	図版 4 - 101
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデと指頭調整	口縁部は外反する。内面は摩滅しており、暗文等は不明である。		第 13 図 102	図版 4 - 102
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 172
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 173
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 174
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 175
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 176
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 177
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 178
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 179
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 180
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 181
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 182
ナデ	ナデ	高台は断面半円状を呈している。摩滅しており暗文等は不明である。			図版 6 - 183
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 184
ナデ	ナデ	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 185

付表 1 - 10 鏡西谷遺跡 (E 地区・F 地区・出土区不明) 出土瓦器觀察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
186	E	D3区		埴	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
187	E	D4区		埴	体部	1				暗黄褐色	暗黄褐色
188	E	D4区		埴	体部	1				暗黄灰褐色	暗黄灰褐色
189	E	D4区		埴	体部	1				暗灰色	暗灰色
190	E	D4区		埴	口縁部	1				暗黄褐色	暗黄褐色
191	E	D3・4区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
192	E	D3・4区		埴	体部	1				暗黄褐色	暗黄褐色
193	E	D3・4区		埴	体部	1				暗灰褐色	暗灰褐色
194	E	D3・4区		埴	体部	1				暗黄褐色	暗黄褐色
195	E	E1区		埴	体部	1				黄灰褐色	黄灰褐色
196	E	E1区		埴	体部	1				黄灰褐色	灰褐色
197	E	E1・2区		皿	口縁部～底部	1				黒褐色	黒褐色
198	E	F5区		皿	体部～底部	1				灰白色	黒褐色
199	E	A8・9区、B7～9区、C6～9区	排土	埴	体部	1				黒褐色	黒褐色
200	F	E18区	S S 02	埴	口縁部	1				黒褐色	黒褐色
201	F	E18区		埴	体部	1				黒褐色	黒褐色
202	不明			埴	口縁部～体部	3				暗灰褐色	暗黄灰褐色
203	不明			埴	口縁部～体部	1				暗灰褐色	暗黄灰褐色
204	不明			埴	体部	1				黒褐色	暗黄灰褐色
205	不明			埴	底部	1				暗灰色	黄灰褐色

付表 2 山中池南遺跡第 2 地点出土瓦器觀察表

	調査区	出土区	出土遺構	器種	残存部位	破片数	口径	底径	器高	色調	
										内面	外面
206		C10区		埴	口縁部～底部	7	15.0	4.1	4.1	黄灰褐色	黄灰褐色

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 186
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 187
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 188
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 189
ナデ	ナデ・指頭調整	器壁が薄く、直線的な口縁部である。摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 190
ナデ	ナデ・指頭調整	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 191
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 192
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られる。			図版 6 - 193
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 194
ナデ	ナデ・指頭調整	内面にはミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 195
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られる。			図版 6 - 196
ナデ	口縁部はヨコナデ、 底部はナデ	口縁部はわずかに外反する。底部は残存部が少ないため不明である。			図版 6 - 197
ナデ	ナデ	内外面ともに摩滅しており、調整、暗文等は不明である。			図版 6 - 198
ナデ	ナデ	摩滅しており、ミガキは不明である。			図版 6 - 199
ナデ	ヨコナデ	口縁部はわずかに外反し、端部はふくらみを持つ。内面には幅 1mm ほどのミガキが見られる。		第 13 図 103	図版 4 - 200
ナデ	ナデ・指頭調整	器壁は薄く、内面には幅 1mm ほどのミガキが見られる。			図版 6 - 201
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はやや外反し、端部はわずかにふくらむ。内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られるが不明瞭である。			図版 6 - 202
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	直線的な口縁部で、端部はわずかにふくらみを持つ。内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られる。			図版 6 - 203
ナデ	ナデ・指頭調整	内面には幅 1 ~ 2mm のミガキが見られる。			図版 6 - 204
ナデ	ナデ	見込みには平行線状の暗文が見られる。高台は断面三角形形状を呈している。			図版 6 - 205

調 整		形 態 的 特 徴 ほ か	残存状況	挿図番号	図版番号
内面	外 面				
ナデ	口縁部はヨコナデ、 体部はナデと指頭 調整	口縁部はふくらみをもち、端部は先細りとなっている。端部内側には面をもつ。高台は断面方形形状を呈し、周辺は丁寧にナデ調整されている。見込みには平行線状になると思われる暗文が見られるが、不明瞭である。		第 13 図 104	図版 4 - 104